

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート ※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、< award@ml.nits.go.jp >宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。	※事務局記入欄 受理No. : B-19
【学校名・氏名】 宗像市立 自由ヶ丘中学校・佐々木 真理子	【応募部門】
【修了研修名】 第 4 回副校長・教頭等研修会	働き方改革実践部門
【活動名】 本校の業務改善の実際 ～健康で安全な学校づくりを目指して	
解決すべき課題 : ※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？ 近年の教育現場における不祥事防止、人材育成、働き方改革（業務改善）は、学校全体で行っていく必要がある。そこで、校長の指示を仰ぎながら、本年度、組織を立ち上げて取り組むこととした。その中でも働き方改革（業務改善）は、学校の実態に即して行っていく部分が大きい。職員全体の力を借りながら、本校の業務を精査し、健康で安全な学校づくりを目指したいと考えた。	
目標・方針 : ※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？ ① 職員全員が関わる業務改善を目指す。 ② 業務改善は、すぐに始められること、来年度からはじめることに分ける。 ③ 組織は、多方面からの意見が聞けるようなメンバーにする。 ④ 改善してどうなったかの振り返りを行い、職員にかえすようにする。	
活動内容 : ※何を行ったか、具体的に記載してください。 ○4 月 : 校長の指示を仰ぎ、本校独自の不祥事防止・人材育成・働き方改革（業務改善）に係る組織（FJP）を立ち上げた。さらに FJP 会議（第 1 回）を招集し、メンバーの顔合わせを行った。メンバーは管理職 2 名、主幹教諭 2 名、学年主任 3 名、初任者指導教員、3 年目以下の教員代表とした。 ○6 月 : 独自の業務改善アンケートを全職員に配布し（図 1）、提出を促した。 内容は、1. 会議・打合せ、2. 分掌、3. 事務・報告書作成、4. 行事 5. 部活動、6. その他とした。 ○7 月 : 業務改善アンケートを校長の指示を仰ぎながら集約し、FJP 会議（第 2 回）に向けて準備を進めた。 ○8 月 : FJP 会議（第 2 回）の開催 ・日時 8 月 5 日（月）13 : 30～15 : 30 司会）教頭 アンケートを集約したものを示し、丁寧に説明した。 F J P 会議で説明するものが 8 つ、議題として話し合うものは 3 つと見通しをたててスタートした。 代表者全員が当事者意識が持てるように、8 つの説明事項についても、	

働き方改革に係る業務改善について		
問題点	その理由	改善策
会議・打合せが多すぎる		
分掌が不明確		
事務・報告書作成が煩雑		
行事の準備・実施が負担		
部活動の負担		
その他		

図 1 : 業務改善アンケート

意見を出し合い、納得のいく話し合いになるよう努めた。内容によっては①改善が容易である、②緊急性を要する等の理由から 2 学期からすぐに始められるものと、来年度から実施するものにわけた。また、教務主幹には事前に来年度の学校カレンダーを作成させ、来年度の行事等を確認しながら意見が出せるようにした。 ・8 月 19 日（月）企画運営会議 F J P 会議で決定したことを報告し、次回の職員会議で伝えることを確認した。 ・8 月 21 日（水）職員会議 F J P 会議の報告と来年度の見通しの説明を行った。
活動の成果 : ※それによって、どんな成果が得られましたか？ 【アンケート→F J P 会議を行って】 ○これまで踏襲されてきたことを職員全員からの意見をもらうことでトップダウンではなく、全員が当事者となって考え直すことができた。 ○意見を言うだけでなく、改善点等を出させるようなアンケートに工夫したことで、無責任な発言が減った。 ○本校の子供たちにとって本当に必要なことはなにか、「強み」と「弱み」を意識した業務改善につながった。 ○これまで同様に継続することになったものも、現在、求められている資質・能力が育つような内容に付加修正していこうとする意見が多く出た。 【教務主幹による学校カレンダーの提示】 ○来年度の見通しが立ち、本当に実践可能か？もっと良い方法はないか？を探すきっかけになった。 ○小中一貫教育推進校として、中学校が来年度の見通しを早めに小学校にも提示することで、より一層行事の精選（働き方改革）や研修の精査が進んだ。
アピールポイント（アイディアや工夫） : みんなで創る教師も子どもも元気な学校！ 校長先生が示す、教育目標を達成したい気持ちはあるのに、やるが多すぎて本当にこれは子どものためなのか？わからなくなる昨今である。 全員から意見を集約し、時間の取れる夏季休業中に全員で知恵を絞って取り組んだことは、それだけで意義深いことであった。とくに、アンケートを見ていくと日頃職員が抱えている悩み等も見えてきた。 そして、このような動きを管理職が中心となって行っていることが職員に見えると、「何かが変わろうとしているな」ということが伝わっているようである。 今回の実践のアピールポイントは ① 全員参加で！ ②時間がとれる無理のない時に！ ③何かを変えるぞ！という意欲を管理職から！ これで本校を職員みんなで創る教師も子どもも元気な学校にしていきたいと思います。